

きずな通信 No.24



2017年3月1日
発行 みやぎ地域づくり交流会
事務局 宮城公民館内

地域づくりは人づくり、ふるさとづくり

みやぎのこの人紹介

②



今回は鼻毛石町出身の日本画家 須藤和之さん(35才)をご紹介します

『何気ない風景を 優しい色彩で描く』

1月12日(木)、須藤さんの個展「前橋の風景展」が開催されている古市町にある(株)ヤマト本社ギャラリーホールにて、(株)ヤマトさんのご厚意により、ご本人の作品に囲まれる中でのインタビューをさせていただきました。

須藤さんは幼少の頃、幼稚園で動物園に行った時、園児たちみんなで動物園の絵を描き、須藤さんは象の絵を描いたそうです。その絵は、須藤さんが象の背中に乗っている絵だったそうで、象使いの少年のようなその絵は幼稚園の友だちからは、嘘つき呼ばわりされたそうです。

しかし、その絵は幼稚園の先生から賞をもらうことになり、苦い思い出だけ、初めて認めてもらえた貴重な経験だったそうです。

小学生の頃は絵は好きだったが、どうやら自分の思っている絵を描くと、同級生

から批判されると考えて身を潜めてましたが、年に一度の写生大会だけは自分の絵を描いたそうです。そして、前年に入賞した作品を見て、同じような作品にはならないようにしたそうで、あまのじやくなところがあり、先生の目を引こうとしたそうです。

前橋市内の県立高校に入学した須藤さんは、美術大学への進学を目指す生徒が集まるゼミへ通うようになり、そこでアートを志す様々な方と出会い、それが刺激になったそうです。そこで出会った女性の事務員から、あなたはいつも頑張っているからと、たびたびこっそりと惣菜パンをもらったそうです。絵画の道で頑張ろうとしている自分が、ご褒美のパンをもらい励みになったと話していました。

その後、美術大学に進学して著名な先生に教えていただき、絵画の仕事からたくさ

んの方と知り合いになることができ、出会いがあつてさまざまな方に助けられて、今の自分があると須藤さんは話していました。

須藤さんの作品は、いつも風が吹いています。風になびく草花であつたり、波であつたりします。その風に運ばれるタンポポの綿毛も描かれています。綿毛は風を受けて運ばれて、新しい命が生まれます。須藤さんの絵画では、「風」「綿毛」「命」がテーマになった作品が多いことを話してくれました。

まだ具体的な計画はありませんが、須藤さんは、みやぎ地域づくり交流会の活動に協力したいと話してくれました。(記 前原清)



地元宮城の農村風景画の前に立つ須藤さん



星空観測会に参加

公民館の地域づくり講座の星空観測会が、2月24日(国指定重要文化財阿久沢家住宅)にて行われました。

地域づくり交流会でも、焼き芋やいいもん汁を作り、寒い中で天体観測で冷えた身体を温めるお手伝いをしました。

真冬の観測会でしたが、阿久沢家住宅のかやぶき屋根と、杉林のシルエットの中の星空は、昼間では味わえない、昔の田舎の雰囲気を楽しめる夜のひと時であったと思います。

なお、今回提供した焼き芋は、自治会連合会が今年度新規購入した焼き芋機で焼いたもので、手軽に本格石焼き芋ができることから、今後の利用を期待したいと思います。



新規購入の石焼き芋機

平成28年度

みやぎ地域づくり交流会

地区内報告会

みんな集まれ!

おのしろう!



日時: 平成29年3月18日(土)

午後1時30分~

場所: 宮城公民館 多目的ホール



今年度の取り組み 1年間の活動ダイジェスト

- ふれあい交流部会
- 自然環境交流部会
- 福祉交流部会
- 宮城中学校地域行事ボランティア報告・
いいもん祭り募金報告

ご来場の方には
七字ファミリー
オリジナル木札を
プレゼント!!



ビデオ上映もあるよ!!



一年の活動の総決算!



地域づくり出前講座

『前橋市の取り組み~みんなで考える地域づくり~』